

# 中間報告会にあたって

## ハイライト：

- ・ 中間報告会は、次のようにすすめます。(次第)
- ・ 中間報告会をもとに、授業改善を(ねらい) ※確認
- ・ 新しい学習評価を意識して
- ・ 国語科、算数科 における学習評価
- ・ イノベーションとマーケティング

## 中間報告会は、次のように進めます。(次第)

### 【中間報告会】

8月25日(木) 9:00～11:30  
於：軽運動室  
司会(井上) 記録(松原)  
○中間報告会意義：井上(5分)  
○実践報告①：低学年(10分)  
協議(10分) ※報告(柴田)  
○実践報告②：中学年(10分)  
協議(10分) ※報告(植田)  
○実践報告③：高学年(10分)  
協議(10分) ※報告(安部)  
※休憩(10分)  
○所員研報告：川見(20分)  
○全体総括：井上(5分)  
○指導・助言  
木庭指導主事【授業】(15分)  
山崎教頭【組織】(15分)  
秋永主任指導主事【全体】(15分)

中間報告会は、左記のように進めていきます。

各部会が1学期の実践を報告し、その内容を全体で協議していくことで、チームでの運営の在り方と授業づくりについての成果と課題を明らかにしていきます。

また、実践報告を聞く中で、理解ができない点や曖昧な点があれば、質問や意見を出していただきたいと思います。

指導・助言者として、3人の先生方をお招きしていますので、この機会に、指導力向上にむけた助言をお受けすることができれば、この会が有意義なものとなります。

よりよいものを生み出していくために、一人一人が主体的に参加していきましょう。

## 中間報告会をもとに、授業改善を(ねらい) ※確認

「中間報告会」を行うねらいについて確認します。ねらいは、次の2つになります。

- ① 情報の共有による授業改善
- ② 自己実践の評価による授業改善

本年度の主題研究は、近接学年というチームで授業づくりを行っています。1学期は、公開授業と日常授業参観指導を通して、成果と課題が少しずつ明らかになってきました。

授業整理会で協議された内容や講師の先生方からご指導いただいた内容には、久原小学校の国語と算数の授業づくりにおいて、価値ある内容がたくさんありました。しかし、これらの内容が、まだ全体で共有することができていません。

そこで、「中間報告会」で、それぞれの成果と課題を発信し合い、共有していくことで、2学期の授業づくりに生かし

ていきましょう。

また、「中間報告会」で発信していく内容を検討していくことは、1学期に行った実践を自ら評価していくこととなります。自分の指導のよさと改善点を分析していくことは、2学期の授業改善の方策がより明確にすることができます。

年度初めの研修で、山崎教頭先生から「マーケティング」と「イノベーション」の必要性をご指導いただきました。これは、児童の実態把握を十分に行い、課題を明確にし、改善策を明らかにしていくことです。

よりよい授業をつくり出し、子どもたちがわかる喜びを感じることができるように、1学期に学んだアイデアを出し合い、よさを取り入れていきましょう。

## 新しい学習評価を意識して

8月4日に「新しい学習評価についての説明会」がありました。新学習指導要領を踏まえた新しい評価の観点についての説明を受けました。

今回の中間報告会での実践報告を新しい評価の観点から、考察していくことも必要なこととなります。

新しい観点は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つになりました。特に、「思考・判断・表現」は、各教科の内容等に即して思考・判断したことについて、その内容を言語活動を中心とした表現に係わる活動と一体的に評価する観点として設定されました。「技能」は、従来の「技能・表現」の観点の「表現」との混同を避けるために改められています。

言語活動を中心とした表現に係わる活動は、久原小学校が進めている国語と算数の授業づくりにおいて不可欠なものとなっています。

研究テーマ「基礎的・基本的な知識・技能の習得・活用を図る学習指導」においての「活用」の部分が、「思考・判断・表現」という観点と重なってくるものです。

研究を進めていく過程で、研究テーマが具現化されているかどうか評価していかなければなりません。その際に、評価の観点を明確にしておかなければ、的確な評価ができず、その後の改善にもつながっていきません。

指導の手だての工夫と併せて、的確な評価を行っていきましょう。



## 国語科・算数科における学習評価

国語科と算数科では、教科の特質から評価の方法が違います。

国語科の観点は、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解」の5つが位置付けられています。その中で「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」とを合わせて評価することになります。

具体的に「読む能力」では、読むための知識・技能が身につけていなければ読むことはできませんし、身につけた知識・技能を活用して、よりの確に読んでいくことになります。

久原小学校の国語の授業づくりでは、読むための知識・技能を習得させ、その知識・技能を活用して、さらに読み進めていることになります。

算数科の観点は、「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」となります。その中で、「数学的な考え方」を「思考・判断・表現」、「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」を「知識・技能」として評価していきます。

久原小学校の算数の授業づくりは、説明する活動を重視しているので、「思考・判断・表現」を高めています。

新しい学習評価  
の観点から、授  
業を見直しまし  
よう。

## イノベーションとマーケティング

本年度の久原小学校の研究のキーワードとして、「イノベーション」を掲げています。研究推進の方法は、従来のものとは違い、イノベーション（技術革新）となり得るものです。しかし、個々の先生方にとっては、自分の中でのイノベーションが進んでいます。今までの自分から一歩でも進み、新しい指導を生み出した時、それはイノベーションとなります。

2学期からも、チーム力を発揮していくことで、さらに技術革新を進めていきましょう。

また、2学期からは、「マーケティング」も行っていきます。1学期の学力実態分析を生かしていくとともに、子どもたちがどんな授業を望んでいるか調査していくことで、よりよい授業をつくり出していきます。